



令和4年10月21日

【本件リリース先】
文部科学記者会、科学記者会、
広島大学関係報道機関



記者説明会<10月25日(火)13時・霞キャンパス>のご案内

胃ろうと薬剤耐性菌保菌率との関係を初めて証明

広島県内の長期療養施設での保菌調査

論文掲載

広島大学 院内感染症プロジェクト研究センターと広島大学大学院医系科学研究科の研究グループは国立感染症研究所薬剤耐性研究センターと共同で、長期療養施設6カ所（介護老人保健施設3、特別養護老人ホーム3）の入所者の薬剤耐性菌の保菌調査を実施しました。その結果、薬剤耐性菌と緑膿菌の保菌率が特に経腸栄養（胃ろうなど）を実施している入所者で有意に高いことを初めて見出しました。さらに緑膿菌の保菌は死亡率とも関連していることが分かり海外の医学雑誌に発表しました。このことについての記者説明会を開きます。ぜひご参加ください。

記

日時：令和4年10月25日(火)13:00~14:00

場所：広島大学霞キャンパス（広島市南区霞 1-2-3）
放射線災害医療研修棟 4階研修室

出席者：

広島大学病院 感染症科教授	大毛 宏喜
広島大学大学院医系科学研究科 先端歯科補綴学准教授	吉川 峰加
国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター主任研究官	梶原 俊毅
（広島大学大学院医系科学研究科 薬剤耐性学 客員講師）	

薬剤耐性菌の蔓延は世界でも喫緊の課題で、国内では2016年、政府が薬剤耐性対策（AMR）アクションプランを策定、それに基づいて対策が推進されています。厚労省院内感染対策サーベイランスによって、病院での薬剤耐性菌の状況は把握できるものの、検査をすることが少ない長期療養施設での実態は分からず、耐性菌の保菌が予後に影響を与えるかについても不明でした。このため広島大学と国立感染研薬剤耐性研究センターが共同で広島県内6施設の入所者178人の調査を実施、その後1年以上の経過観察を行いました。今回の研究成果から、長期療養施設でも薬剤耐性対策、特に緑膿菌保菌に対する対策が必要であることが示されました。

論文情報

掲載誌：Gerontology

論文タイトル：Oral and Rectal Colonization by Antimicrobial-Resistant Gram-Negative Bacteria and Their Association with Death among Residents of Long-Term Care Facilities: A Prospective, Multicenter, Observational, Cohort Study

著者：梶原俊毅*、矢原耕史*、吉川峰加、春田梓、川田-松尾美樹、Le Nguyen-Tra Mi、荒井千夏、竹内真帆、北村徳一、菅原庸、久恒順三、鹿山鎮男、太田耕司、津賀一弘、小松澤均、大毛宏喜、菅井基行*

*Corresponding Author(責任著者)

DOI 番号：https://doi.org/10.1159/000525759

【お問い合わせ先】

広島大学病院 広報・調査担当役 古市
Tel：082-257-5418 FAX：082-257-5087
E-mail：byo-toku-chousa@hiroshima-u.ac.jp
発信枚数：A4版 3枚（本票含む）



会場：放射線災害医療研修棟 4階 研修室

(別紙)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学広報室 行

記者説明会（10月25日（火）13時・霞キャンパス）のご案内

胃ろうと薬剤耐性菌保菌率との関係を初めて証明
広島県内の長期療養施設での保菌調査

日時：令和4年10月25日（火曜日）13：00～

場所：広島大学霞キャンパス
放射線災害医療研修棟 4階研修室

ご出席 ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____ (計 名)

電話番号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、10月24日（月曜日）正午まで
にご連絡願います。